

令和 4 年 6 月 6 日現在

機関番号：12201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00785

研究課題名(和文) small talkを中心とした小学校英語科の授業改善と評価指標の開発・共有

研究課題名(英文) Development and sharing of evaluation indicators and improvement of elementary school English classes centered on small talk

研究代表者

田村 岳充 (Tamura, Takamitsu)

宇都宮大学・共同教育学部・助教

研究者番号：40823323

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：那須烏山市の小学校英語科の授業改善を目指し、授業にsmall talkを取り入れるとともに、児童の話すこと[やり取り][発表]の能力の伸張を目指すとともに、それらを捉え、評価するための評価指標の開発・共有を企図した研究を推進した。タブレット端末を購入し、それらを市内の拠点校に貸し出し、児童のパフォーマンスを捉えるために活用しつつ、作成した評価指標をもとに実際に評価を行いながら、よりよい指標となるよう改善を重ねた。その結果、使用に耐えられるものができあがった。研究成果をまとめたDVDをおよそ300セット作成、全国の都道府県教育委員会、教育センターに配付し、研修への活用ができるようにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

養成段階で小学校英語について学ぶ機会がなかった小学校教員が非常に多く、小学校で英語を教えることは大きな不安をもたらしている。令和2年度から教科となった英語授業も大きな負担となっている。小学校教員を対象とした研修でも、理論を教える講義や教員の英語運用能力を伸ばすための演習などが多く、評価を扱ったものは少ない。実際の児童のパフォーマンスを視聴したり、評価を試行したりするものはほとんど見られない中で、本研究の成果として制作され、全国に配付されたDVDは、具体的、かつ、児童の姿、授業の様子まで含まれたものとなっており、小学校教員(研修を担当する指導主事など)にとって貴重なものとなるであろう。

研究成果の概要(英文)：Aiming to improve elementary school English classes in Nasukarasuyama City, Principal Investigator advised the teachers to incorporate "small talk" into the classes, aiming to improve students' speaking skills, and also to develop and share the evaluation indices to capture and evaluate these skills.

Tablets were purchased and they were lent to elementary schools in the city. While utilizing them to capture children's performance, actual evaluations were conducted based on the created evaluation indicators and improvements were made to make the indicators better. As a result, the usable product were finally made.

DVDs summarizing the results of the research were created and distributed to prefectural boards of education and education centers throughout Japan for use in training programs.

研究分野：英語教育

キーワード：小学校英語 small talk 話すこと[やり取り] 話すこと[発表] パフォーマンステスト 評価規
準 DVD配付による成果の還元

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本英語検定協会英語教育研究センター(2018)によると、外国語活動・外国語の望ましい担当者は誰かを問う設問に学級担任と回答しているのは53.1%であり、英語専科教員の57.8%、ALT (Assistant Language Teacher) の79.5%と比べて低い。外国語活動が始まって7年が経過した現在でも、担任以外が授業を行ったほうがよいとする回答が上回っているところに、小学校教員の不安が未だ十分には解消されていないことが分かる。

全国で小学校教員を対象とする研修が数多く行われているが、山森(2013)は、多くの研修の内容が指導理論とその実践および言語理論に焦点を当てたものとなっていると述べる一方で、池田・今井・竹内(2017)は、小学校教員は、実際に授業をどのように進めるか、授業に活用できるものを求める傾向が強いと主張している。酒井・滝沢・亘理(2017)は、外国語活動の授業を行うために必要な内容を包括的にまとめており、実際に授業を行う教員が学ぶべき内容を理論面から整理している。しかし、専科ではない小学校教員を支え、体系的かつ効果的な研修を行うための内容や方法を扱った書籍はほとんどない。町田・内田(2015)は、集中研修の改善・充実に向けた研究を、池田・今井・竹内(2017)は大学院生を支援員として小学校に派遣する研究を行い、双方とも一定の効果を上げたと報告している。しかし、先行研究では、実際に児童の反応を観察する授業研究の機会を設定していない。授業作りを中核に据えた、小学校教員を対象とする外国語活動・外国語の研修を継続的に行った例は、筆者が知る限り見られない。

こうした背景から、小学校教員の英語指導に関する不安を緩和する必要性は非常に大きく、本研究を行う意義は小さくない。

2. 研究の目的

1で述べたように、小学校外国語活動・外国語の授業の研修方法について取り上げている書籍はほとんど見当たらない。また、短期集中型の研修についてその効果を明らかにした先行研究は散見されるが、中長期的なスパンで研修を構想・展開するとともに、その中核に授業作りや授業改善を置いてその効果を検証したものはほとんど見当たらない。

小学校教員が大学教員、指導主事やALTとの連携を通し、英語を使った児童とのやり取りを行うことへの不安を緩和できる環境を整備することは非常に重要である。また、単に授業を行うことのみならず、児童のパフォーマンス(英語でのやり取りを行っている児童の姿)に焦点を当て、望まれる児童の姿を指標化するとともに、実際の評価に生かすことができるようにしていかなければならない。そのためのガイドとすべく、評価指標とその運用の具体、実際の児童の

パフォーマンスとそれをどのように見取るかのガイド、評価を試行する機会と複数の教員によるモデレーションをカバーできる研修や、研修で活用する映像資料(DVD)を作成することを本研究の目的とする。

研究で期待される変容を図1で示す。

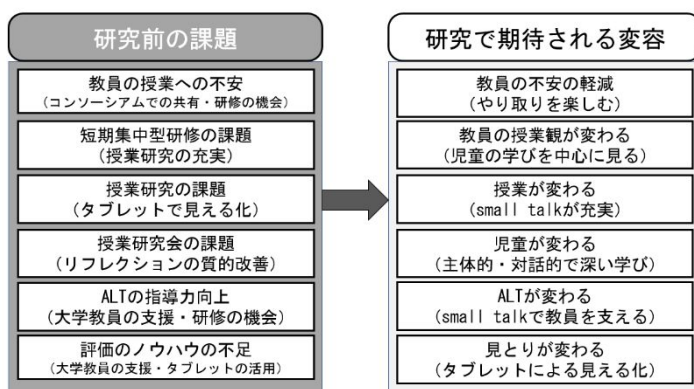


図1 研究前の課題と研究で期待される変容

3. 研究の方法

図2は、3年間の計画で進行する本研究のイメージを表している。3年間の研究を進めていくための方法を3点、以下に挙げる。

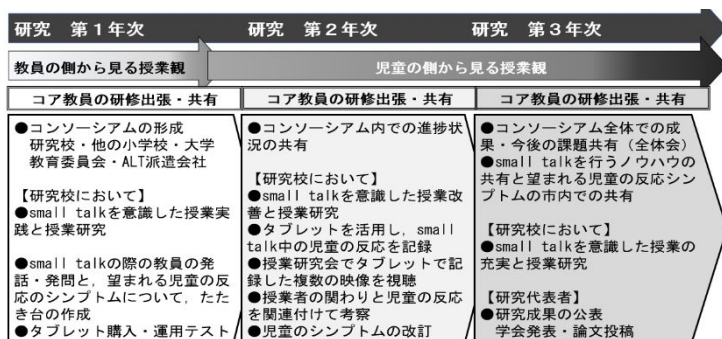


図2 本研究の3年間の進行イメージ

(1) タブレット端末の活用

科研費を活用して購入したタブレット端末を対象となる小学校へ貸与し、専科教員、担任が活用する。児童のパフォーマンスの様子を映像として残し、事後、視聴しながら評価ができるような環境を整えるためである。また、映像データを集約できる

ハードディスクも準備し、同じ児童のパフォーマンス映像を時系列に並べ、成長の姿を追いかけることができるようにもする。

(2) 評価指標の開発

先行研究を参考にしながら、児童のパフォーマンスを見取り、評価をすることができるような指標を開発する。図2が示すように、評価指標を実際に運用し、課題を踏まえ改訂する作業を繰り返しながら、実際の評価に活用できる段階まで精度を高めていく。

(3) 評価指標の共有、研究成果の公表

開発した評価指標とその運用方法の具体、児童の実際のパフォーマンスとその評価、児童の話すこと[やり取り][発表]の力を育むことのできる日常の授業、の3点を収めたDVDを作成し、全国の教育委員会、教育センターなどに配付する。その際、児童の姿が収められることとなるため、当該小学校の校長、教育委員会、児童及び保護者の同意を得、個人情報の扱い、保護には十分すぎる配慮を行う。また、研究のプロセスで得られたことを、論文や学会発表で公表していくことも同時に行っていく。

4. 研究成果

3で示した具体的な方法をもとに、本研究のフィールドである那須烏山市の小学校英語科の授業改善を目指し、授業にsmall talkを取り入れるとともに、児童の「話すこと(やり取り)・(発表)」の能力の伸張を捉えるための評価指標の開発・共有を企図した研究を行った。3年間の研究の成果もあり、授業改善が進み、専科教員・学級担任・ALTが豊かなやり取りを行いながら授業を展開することができるようになった。英語授業に向き合う小学校教員の不安が和らいだ結果とも言えるだろう。

導入したタブレット端末が有効に活用されるとともに、新たにGIGAスクール構想のもとに市によって導入された児童用タブレット端末も併せて活用され、学期末・年度末のパフォーマンステストの実施、評価が起動に乗ってきた。評価指標については、先行研究の成果をもとに、専科教員とともに設定をし、運用しながら改訂を重ね、使用に耐えられるものにもなった。研究の過程で撮りためてきた児童のパフォーマンステストについて、同一児童の年間を通した変容を捉えられるようにするために、映像を編集し、授業改善とパフォーマンステスト実施による成果を確認することができた。物怖じせずALTとのインタビューに臨み、自分のことばで楽しみながら考えや気持ちを伝えようとする児童の姿を引き出すこともできた。これは大きな成果と言ってよいだろう。

評価指標とその運用の仕方，児童のパフォーマンステストの実際とその際の留意事項，児童の「話すこと（やり取り）・（発表）」の力を育むことにつながる普通の授業の3つを収めた2枚組DVDを作成し，全国の都道府県教育委員会，教育センター（栃木県内では市町教育委員会）に配付をし，研修に活用いただけるよう，成果を共有することができた（約300セット）。いくつかの教育委員会から，市町内の小学校教員研修に活用してよいかの問い合わせがあり，本研究の成果がすでに波及しつつあることも確認できている。3年間の研究は一旦区切りを向かえるが，今後の問い合わせにも対応し，支援を継続していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 田村岳充
2. 発表標題 small talk を中心とした小学校英語科の授業改善と評価指標の開発・共有
3. 学会等名 第20回小学校英語教育学会中部・岐阜大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------